

# 2021年3月期 決算説明会

2021/5/19

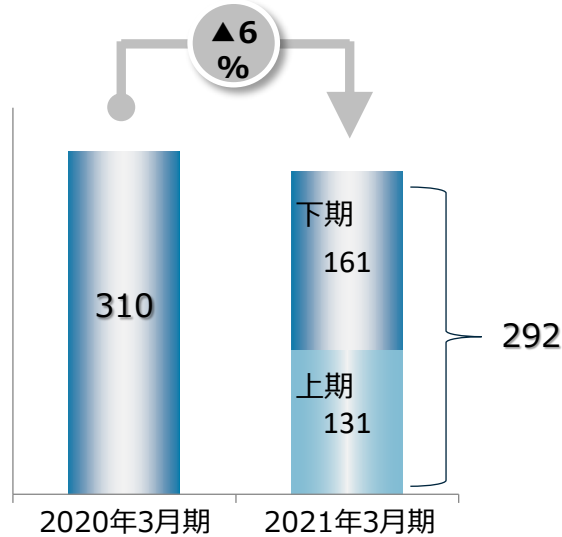
# 2021年3月期決算説明

単位：億円（億円未満四捨五入）

	2020年3月期 実績	2021年3月期 実績			前期比
		上期	下期	通期	
売上高	930	353	451	<b>804</b>	▲13.5%
営業利益又は損失	18	▲20	9	<b>▲11</b>	-
経常利益又は損失	16	▲20	9	<b>▲12</b>	-
親会社株主に帰属する 当期純利益又は損失	▲42	▲50	▲6	<b>▲56</b>	-

- ◆新型コロナウイルス感染症の影響により大幅に減収減益も、下期は持ち直し。
- ◆事業構造改革費用39億円を含む特別損失42億円により、大幅な当期純損失を計上。

## セグメント別売上高



## 市場動向

自動車市場や家電市場を中心に下期に強い回復を見せた。  
年末以降、半導体供給ひっ迫のトピックスも。

## 当社の状況

上期不調だった自動車向けが、夏場以降急回復。  
主力市場の需要が回復したことで、損益面を後押し。

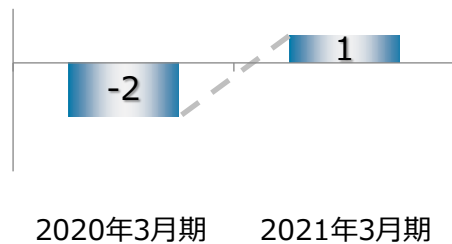
## 市場別比較

### 自動車

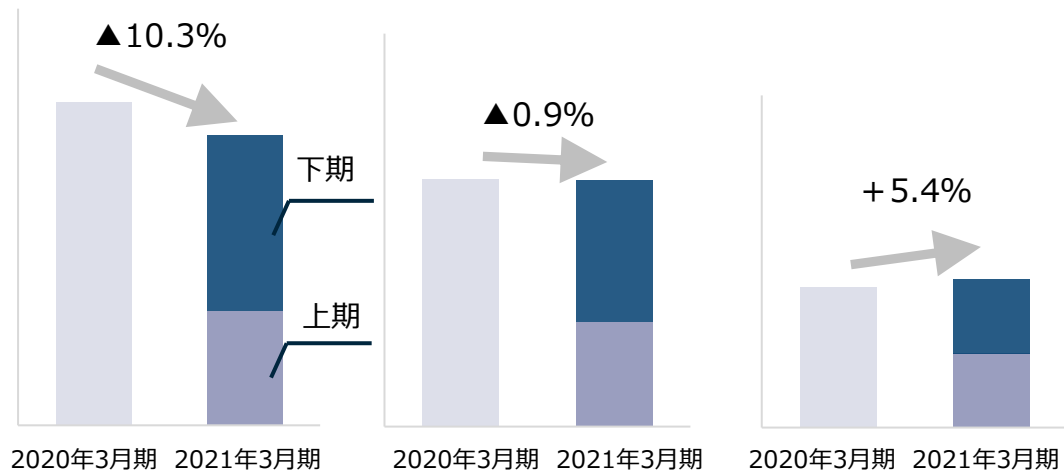
### 家電

### 産機

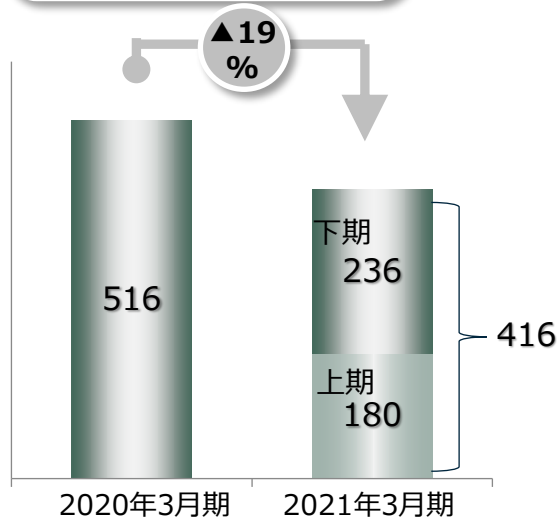
## セグメント別営業利益



単位：億円 (億円未満四捨五入)



## セグメント別売上高



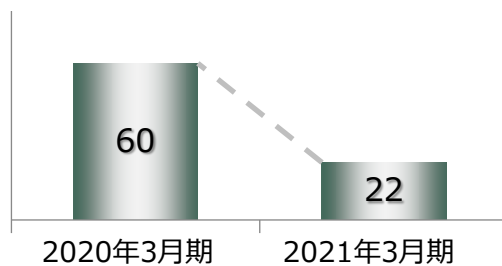
## 市場動向

インドが下期に急回復を見せた一方で、  
主力のインドネシアは経済活動の制限継続などから、低調。

## 当社の状況

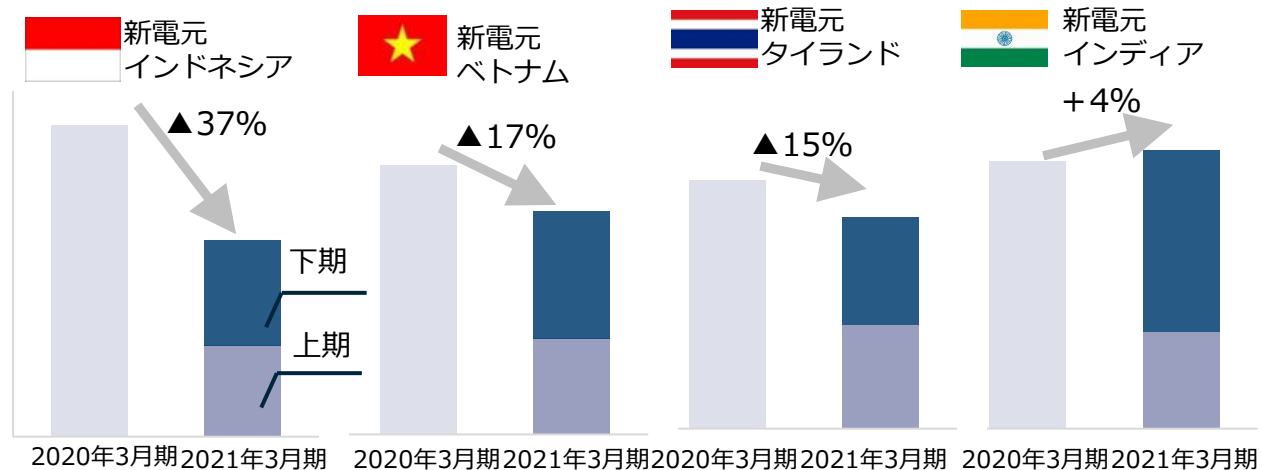
上期はインド、インドネシアで1か月前後、操業停止した。  
下期は回復はしたものの、コロナ前の水準までは届かず。

## セグメント別営業利益



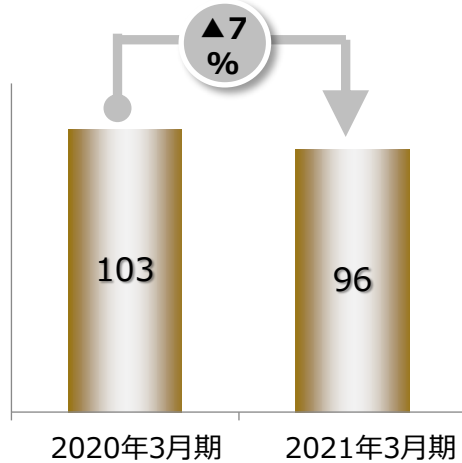
単位：億円 (億円未満四捨五入)

## 二輪地域別売上



※現地グループ会社の二輪車向け売上高 (現地通貨ベース) で前期と比較

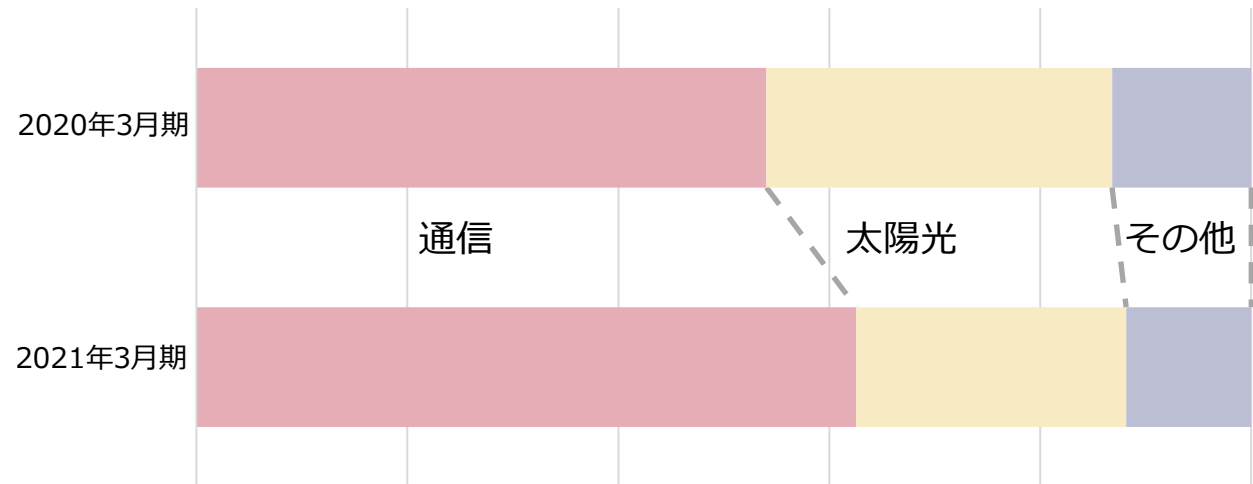
## セグメント別売上高



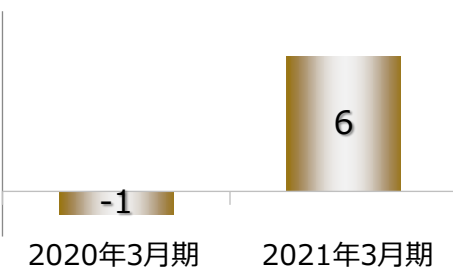
## 当社の状況

5G普及に伴い通信向けが堅調だったことで、利益を確保。  
不採算の太陽光発電向けパワーコンディショナは、  
計画的な終息を進める。

## 製品群別売上構成比



## セグメント別営業利益



単位：億円（億円未満四捨五入）



## 設備投資・減価償却・研究開発

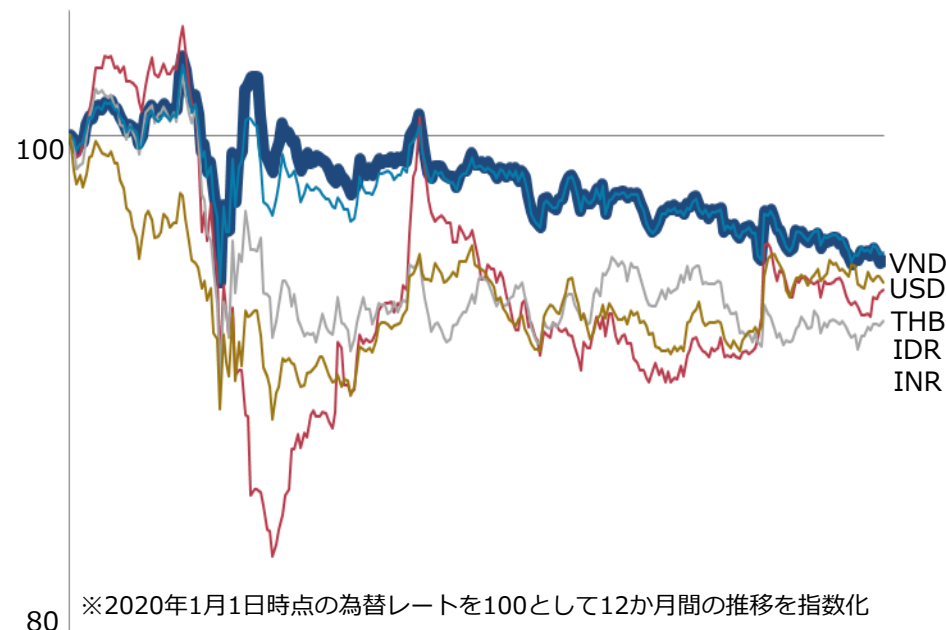
単位：億円（億円未満四捨五入）

	2020年3月期 実績	2021年3月期 実績	前期比
設備投資	94 内、朝霞事業所関連31	<b>118</b> 内、朝霞事業所関連85	+25.7%
減価償却費	52	<b>47</b>	▲8.5%
研究開発費	50	<b>50</b>	▲1.4%

## 為替レート

単位：JPY/USD

	2021年3月期 実績
換算為替レート	<b>106.68</b>
平均為替レート	<b>106.27</b>



◆設備投資では、朝霞事業所以外へは、  
厳選し実施。

単位：億円（億円未満四捨五入）

	2020年3月期	2021年3月期	増減
流動資産	735	743	1.1%
固定資産	481	535	11.4%
資産 合計	1,216	1,278	5.1%
流動負債	294	317	7.6%
固定負債	389	467	20.1%
負債 計	683	784	14.7%
純資産	532	494	▲7.1%
総資産 合計	1,216	1,278	5.1%
自己資本比率	43.8%	38.7%	▲5.1pt.
有利子負債残高	272	386	41.5%

- ◆ 朝霞事業所建設費用の資金調達を行ったことで、有利子負債が増加。負債が増えた結果、自己資本比率低下。

# 第15次中期経営計画の進捗

## 中期主要テーマの進捗

### 主力製品の競争力強化

#### 主な取組み

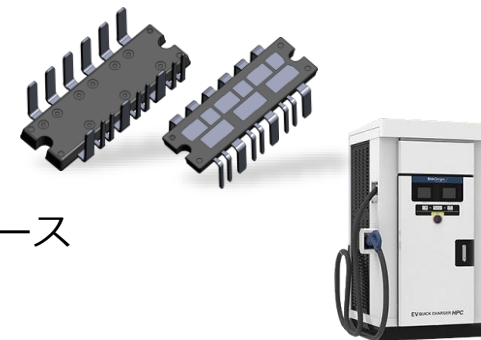
- 生産効率の向上
- 付加価値のある製品提案で主力製品のシェア維持



### 伸長事業の発展

#### 主な取組み

- 「**小型・軽量化**」したパワーモジュールのラインナップを拡充。
- 150kWのEV**急速充電器**を市場に先駆けてリリースするなど、普及期に向けた開発を進める。



### 10年先を見据えた次世代製品への取り組み

#### 主な取組み

- ★ ■ **新組織「FPD部\*」**を発足（2021年6月）。**新事業の検討**に取り組む。
- **酸化ガリウム**を用いた次世代パワー半導体の開発を推進。
- EV**非接触充電**の開発推進。



# 環境対応車向けの取組み

## パワーモジュール

低損失品で  
自動車の小型・軽量化に寄与。



## DC/DCコンバータ

内製デバイスを活用し、  
高い変換効率を実現



## ECU

アイドリング制御をつかさどり、  
排ガス・騒音の低減に貢献。



## MEMO

アセアンやインドでも  
強化される排ガス規制  
適合車種が増加。



## ダイオード

車載品質に準拠した高信頼設計

## パワーMOSFET

高速応答性と低損失のバラン  
スを最適化

## EV充電器

普通充電器から  
急速充電器まで、  
幅広いラインナップ



## PCU \*

二輪電動化を見据え  
開発推進中。



\*Power Control Unit

## 目的

- 市場環境に左右されない収益構造の構築
- モビリティ・産機市場を中心に競争力強化

## 企業価値向上を図る

### 成長戦略

#### デバイス事業

ダイオードとパワーモジュールの二本柱体制

ダイオード

付加価値で差別化

モジュール

2024年度  
売上比率20%

#### 電装事業

内製デバイスを武器に  
環境車向け拡充へ

環境対応車

内製部品で競争強化

二輪EV

市場拡大に備え  
地盤固め

### 施策内容

開発体制の再編

生産体制の適正化

不採算製品の整理による  
収益性の改善

人員の削減・適正化

2022年3月期

短期効果 約**36**億円を見込む

	2020年度	2021年度	2022年度	
開発体制の再編	朝霞事業所開業			
		一部機能の生産会社への統合		

大手町本社



飯能工場



重複する機能は  
生産会社へ統合

朝霞事業所開業  
(2021年4月)

完了



ウエハー  
プロセス



推進中

秋田新電元



推進中

東根新電元

評価機能



推進中

岡部新電元

修理機能



推進中

新電元  
スリーイー

2021年度上期中に完了予定

	2020年度	2021年度	2022年度
生産体制の適正化			CR閉鎖・統合
			ウエハーインチアップ
		生産移管	

## クリーンルーム2棟閉鎖

- 飯能工場CR（2021年3月閉鎖）

設備は他CRへ移設

完了



- 東根新電元CRの1棟（2022年度閉鎖予定）

閉鎖に向けた  
作り込み推進中

推進中



## モジュール 後工程生産効率化

推進中

ラインの移設は完了  
量産開始に向けた立ち上げ準備中



新たに生産ラインを構築する  
ランブーン新電元

## ウエハーインチアップ

推進中

作り込み後、  
順次切替開始。



## 電装品国内外 生産体制適正化

推進中

移管準備中、  
一部客先承認完了



	2020年度	2021年度		2022年度	
不採算製品の整理による 収益性の改善	不採算PCSの終了				
		デバイス製品の不採算品整理			
人員の削減・適正化	人員合理化				

不採算製品の整理による  
収益性の改善

デバイス  
対象製品約6割で整理完了。

推進中

不採算の太陽光パワーコンディショナ  
生産終了に向けたアナウンス完了。  
(納品は2022年度まで継続)

完了

人員の削減・適正化

希望退職を含む合理化を実施

完了

国内グループ会社正規従業員希望退職 165名  
非正規従業員含め国内従業員 11%を削減

●その他・・・固定資産の廃却・売却等

# 2022年3月期業績予想

## 新型コロナウイルス感染症の影響について

2022年3月期は、ウィズコロナの経済環境・市況を反映した足もとの状況が継続する想定。

単位：億円（億円未満四捨五入）

	2021年3月期 実績	2022年3月期 予想	前期比
売上高	804	879	+9.3%
営業利益	▲11	41	-
経常利益	▲12	42	-
親会社株主に帰属する 当期純利益	▲56	39	-

為替レート

104円

単位：JPY/USD

設備投資

**53**億円

減価償却費

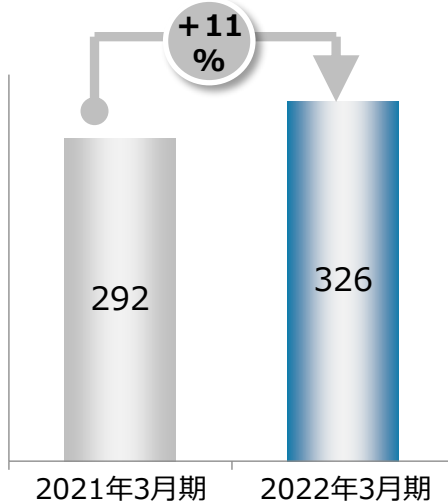
**50**億円

研究開発費

**47**億円

◆投資有価証券売却により、特別利益約10億円を第1四半期に計上。

## セグメント別売上高



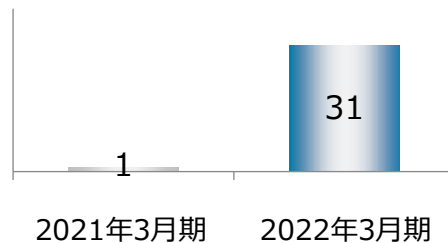
## 市場の見通し

車載向けや、家電向けがコロナ前の水準まで回復する一方、世界的な半導体の供給ひっ迫により先行き不透明な状況。

## ポイント

損益分岐点があがり、厳しかった事業環境から構造改革に着手し、利益を生み出せる体質へ改革を進める。

## セグメント別営業利益

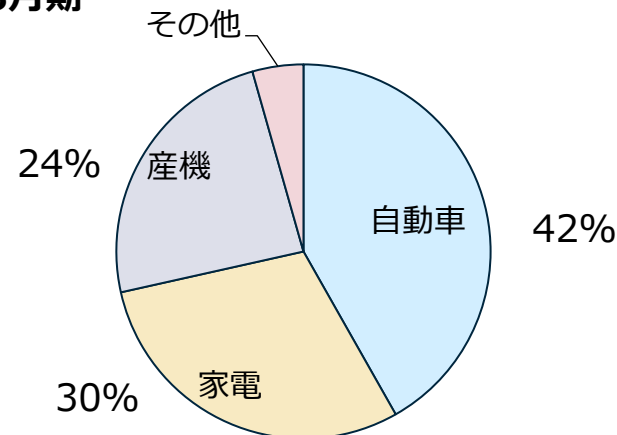


単位：億円（億円未満四捨五入）

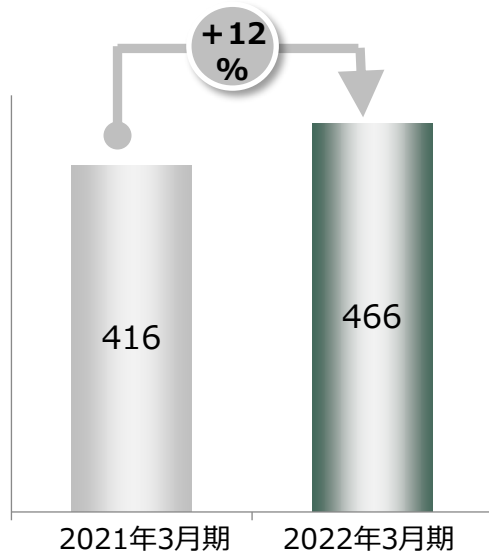
## 市場別売上構成比

※単体ベース

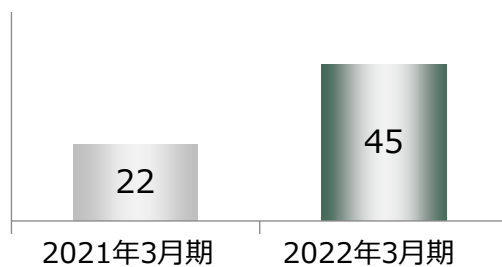
2022年3月期



## セグメント別売上高



## セグメント別営業利益



単位：億円（億円未満四捨五入）

## 市場の見通し

アセアン二輪市場は、コロナ前の水準に戻るまで数年を要するという見方が出ているほど、経済回復に遅れ。  
2022年3月期は、現状をベースに緩やかな回復が続くとみている。

## ポイント

主力の二輪市場の動向に即応できるよう、体制を整備する。  
二輪・四輪の環境対応車向け等の製品開発を進める。

## 二輪市場台数前提

※各国内、二輪車2021年1-12月新規販売台数予測（当社調べ）  
インドのみ、4-3月期間で集計。カッコ内は前期比。

インドネシア



430万台  
(+17%)

ベトナム



282万台  
(+4%)

タイ



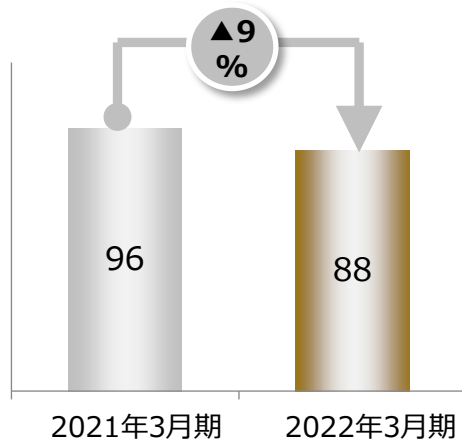
165万台  
(+8%)

インド



1,852万台  
(+2%)

## セグメント別売上高

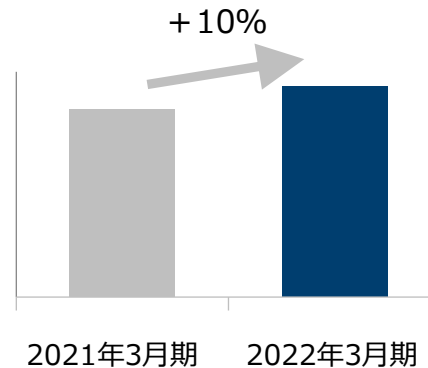


## ポイント

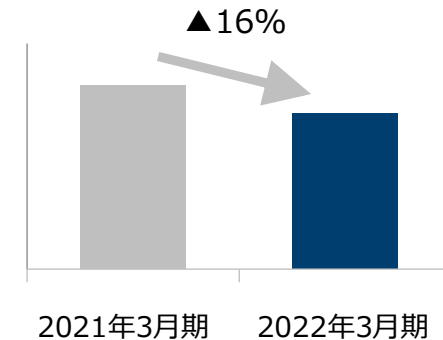
5G基地局向け電源は2022年3月期も堅調に推移すると想定。  
不採算の太陽光発電向けパワーコンディショナは、  
生産の終了に向けて段階的に取り組む。

## 製品群別売上構成比

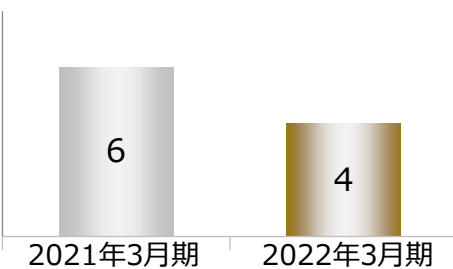
### 通信



### 太陽光



## セグメント別営業利益

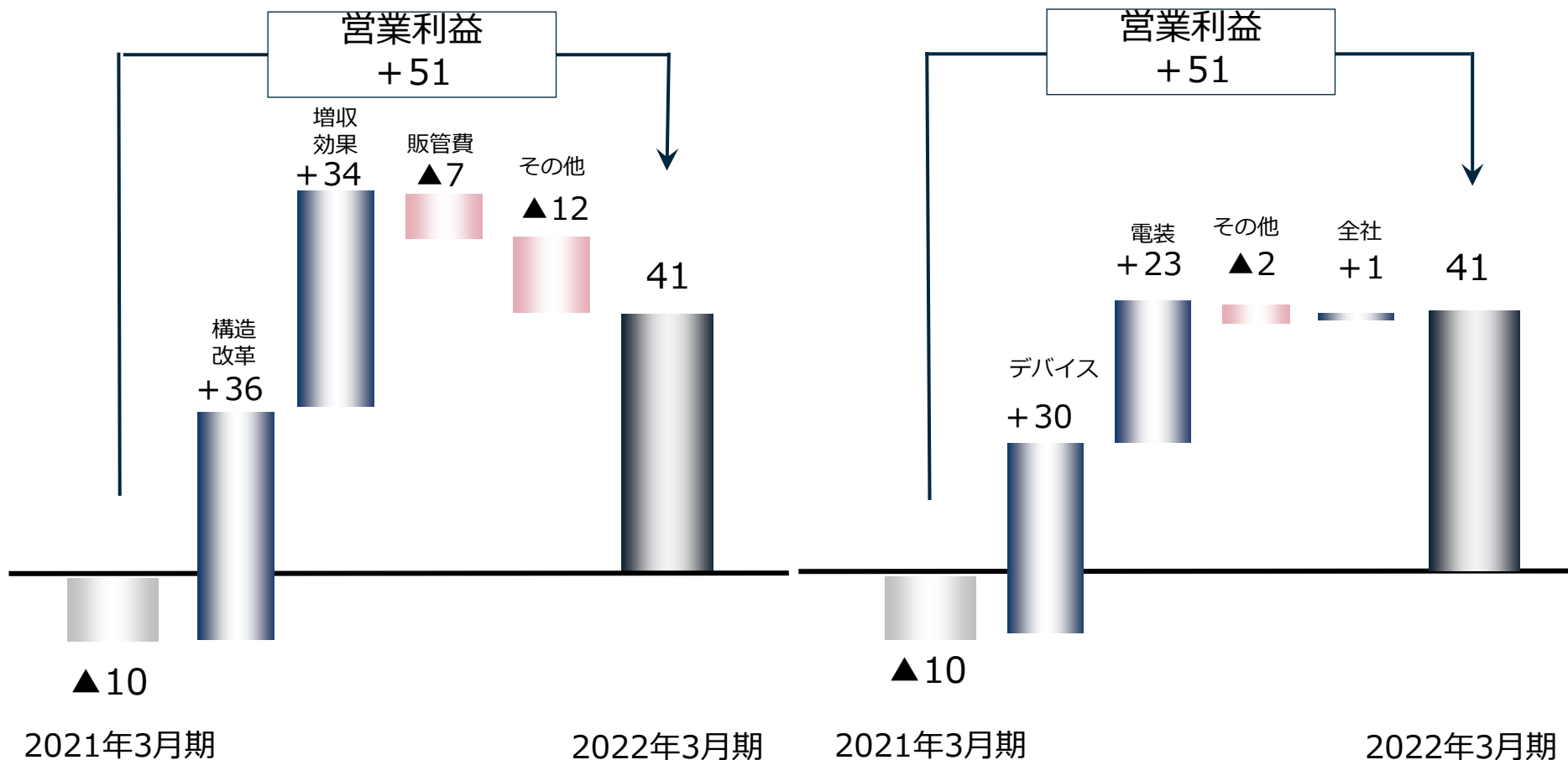


単位：億円（億円未満四捨五入）

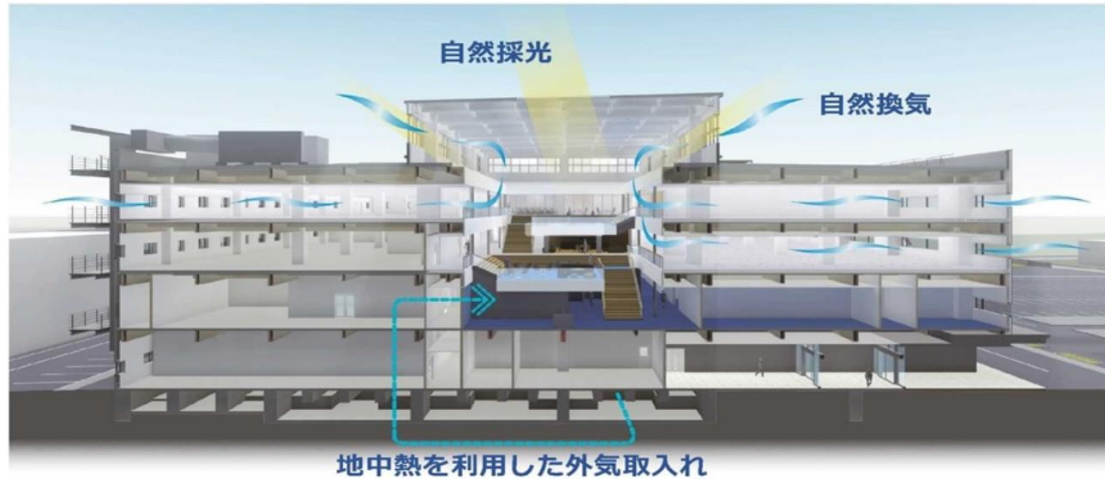
## 要因別増減益分析

## セグ別増減益分析

単位：億円（億円未満四捨五入）

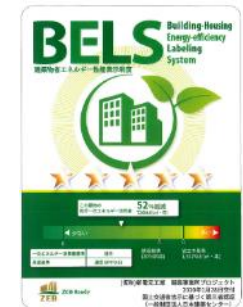


## 2021年4月 朝霞事業所開業



自然採光、自然換気等を取り入れ、快適性を高め、  
知的生産性を向上させる事業所へ。

**ZEB Ready取得** 消費エネルギー**52%削減**



**CASBEEウェルネスオフィス Sランク**



## 二輪EV向け Power Control Unit

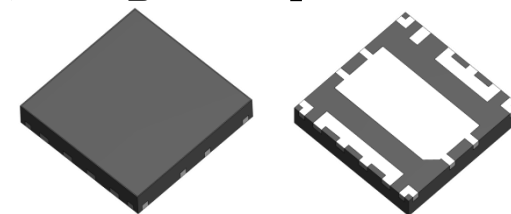


電動二輪車向けPCU  
**今夏量産**  
に向けて開発推進中

## 理想ダイオードIC MF2003SV

ICやMOSFETの技術を組み合わせ  
ダイオードと類似の機能を実現。  
従来のダイオードと比較して、

**低損失・小型化**を実現



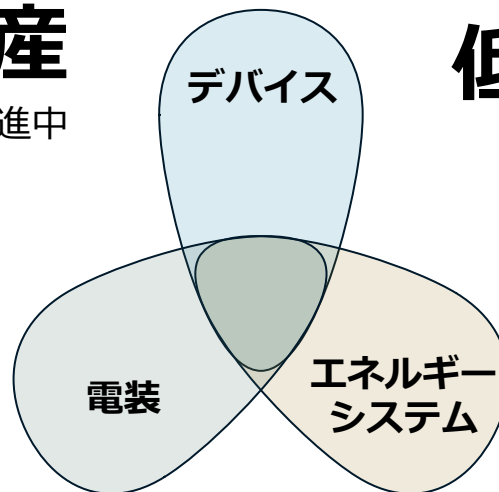
## 薄型 SDQC2F60シリーズ



都市部の商業施設や駐車場など狭小地向け

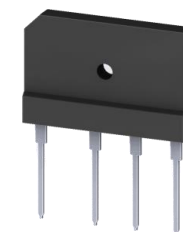
幅**35cm\***の薄型フォルム

\*突起部除く



## 低VFブリッジダイオードLK25XB60

雷サージ耐量で**業界最高**  
の10KVを達成



## 配当方針

当社は、株主の皆様に対する利益還元を経営の重要課題のひとつと位置付けており、業界における競争力を維持・強化するための内部留保、株主資本利益率の水準、業績などを総合的に勘案して成果の配分を行っていくことを基本方針としております。

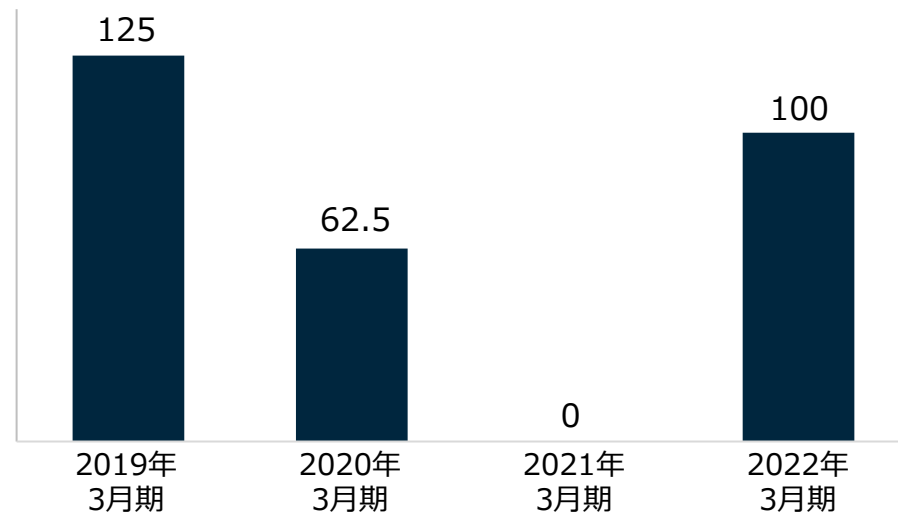
## 配当予想

1株あたり配当金（年間）  
2022年3月期  
期末配当金

100円

を予定

## 配当金推移



事業構造改革に  
注力するため

企業ミッション

**「エネルギーの変換効率を極限まで追求することにより、  
人類と社会に貢献します。」**

**ご清聴ありがとうございました。**

本資料に記載した将来に関する見通しは、現時点で得られた情報に基づいて算定しておりますが、多分に不確実な要素を含んでおります。  
従いまして、実際の業績は、業況の変化などにより記載の見通しとは異なる結果となる可能性があります。

# Appendix

単位：百万円（百万円未満切捨て）

◆セグメント別連結売上高（上・下）実績、予想

	2021年3月期 実績						2022年3月期 予想					
	上期		下期		通期		上期		下期		通期	
	売上高	構成比	売上高	構成比	売上高	構成比	売上高	構成比	売上高	構成比	売上高	構成比
デバイス	13,110	37.2%	16,102	35.7%	29,213	36.3%	15,950	37.2%	16,650	37.0%	32,600	37.1%
電装	18,069	51.2%	23,560	52.2%	41,630	51.8%	23,200	54.1%	23,350	51.9%	46,550	53.0%
その他	4,108	11.6%	5,484	12.1%	9,593	11.9%	3,750	8.7%	5,000	11.1%	8,750	9.9%
合計	35,288	100%	45,148	100%	80,437	100%	42,900	100%	45,000	100%	87,900	100%

◆セグメント別連結営業利益（上・下）実績、予想

	2021年3月期 実績						2022年3月期 予想					
	上期		下期		通期		上期		下期		通期	
	営利	利益率	営利	利益率	営利	利益率	営利	利益率	営利	利益率	営利	利益率
デバイス	△672	—	757	4.7%	85	0.3%	1,300	8.2%	1,800	10.8%	3,100	9.5%
電装	295	1.6%	1,899	8.1%	2,195	5.3%	2,300	9.9%	2,200	9.4%	4,500	9.7%
その他	98	2.4%	528	9.6%	627	6.5%	100	2.7%	300	6.0%	400	4.6%
調整額	△1,676		△2,311		△3,987		△2,000		△1,900		△3,900	

※連結営業利益は、セグメント間の内部売上高を含んだ数値で算定しています。

単位：百万円（百万円未満切捨て）

## ◆全製品 市場分類別売上高構成比（前期比較）

市場分類	2020年3月期	2021年3月期	
	構成比	構成比	売上高増減率
通信	7.9%	9.4%	6.4%
情報	1.5%	1.6%	△2.7%
自動車	56.6%	52.4%	△17.3%
産業	21.0%	22.2%	△5.8%
家電	12.3%	13.7%	△1.0%
その他	0.7%	0.7%	△7.7%
合計	100.0%	100.0%	△10.7%

## ◆半導体・IC製品群 市場分類別売上高構成比（前期比較）

市場分類	2020年3月期	2021年3月期	
	構成比	構成比	売上高増減率
通信	2.4%	2.3%	△5.9%
情報	3.8%	3.9%	△2.9%
自動車	39.2%	36.5%	△10.3%
産業	21.4%	23.4%	5.4%
家電	31.8%	32.8%	△0.9%
その他	1.4%	1.1%	△23.5%
合計	100.0%	100.0%	△3.7%

## ◆半導体製品群別売上高構成比（前期比較）

市場分類	2020年3月期	2021年3月期	
	構成比	構成比	売上高増減率
ダイオード	80.2%	80.3%	△3.6%
サイリスタ	3.2%	3.1%	△7.8%
IC	5.4%	5.5%	△0.4%
スイッチング素子	3.4%	3.0%	△14.4%
パワーモジュール	7.8%	8.1%	△1.0%
合計	100.0%	100.0%	△3.7%

※上記比率は、新電元単独のデータを元に算出しています。